

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：東曹産業株式会社大阪工場
におけるボイラー更新プロジェクト

排出削減事業者名：東曹産業株式会社

排出削減事業共同実施者名：丸紅株式会社

その他関連事業者名：

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	東曹産業株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	東曹産業株式会社 大阪工場
住所	大阪府大阪市城東区今福東 3-2-18
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	丸紅株式会社
その他関連事業者	
関連事業者名	

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

東曹産業株式会社大阪工場におけるボイラー更新プロジェクト

2.2 排出削減事業の目的

本事業は、灯油焚きボイラーから高効率の都市ガス焚きボイラーへ更新する事業である。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

東曹産業株式会社大阪工場において、既設の灯油焚きボイラー2台を高効率の都市ガスボイラー4台に更新することにより二酸化炭素排出量を削減し、また燃料を灯油からより低炭素の都市ガスに転換することによってさらに二酸化炭素排出量の削減を図る。

2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

特になし。

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

2010年 4月 6日

3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2013年 4月 1日 ～ 2018年 3月 31日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

4.2 活動量

4.2.1 活動量・原単位

活動量、原単位は採用しない。

4.2.2 活動量の採用根拠

4.3 事業の範囲（バウンダリー）

本事業のバウンダリーは、東曹産業株式会社大阪工場において更新される灯油焚きボイラー及び都市ガス焚きボイラーから蒸気の供給を受ける設備である。

5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法 に変更ある場 合、) 変更理由
$F_{fuel,Pj}$	事業実施後の都市ガスの使用量	Nm3	2013年度：354,567.4 2014年度：428,660.0 2015年度：379,444.9 2016年度：336,403.1 2017年度：322,741.2	ガス会社の請求書の値に標準状態変換係数 1.0448（大阪ガス㈱提供の値）で除する。	変更なし
ε_{Pj}	更新後のボイラー効率	%	86.4	カタログ値（高位発熱量時）	変更なし
ε_{BL}	更新前のボイラー効率	%	83.1	カタログ値（高位発熱量時）	変更なし
$HV_{fuel,Pj}$	事業実施後燃料（都市ガス）の単位発熱量	GJ/Nm3	2013年度：0.044 2014年度：0.0464 2015年度：0.046 2016年度 ～2017年度：0.045	J-クレジット制度のデフォルト値	変更なし
$CF_{fuel,Pj}$	事業実施後燃料（都市ガス）の単位発熱量あ たりの排出係数	tCO2/GJ	2013年度 ～2017年度：0.0513	J-クレジット制度のデフォルト値	変更なし
$CF_{fuel,BL}$	事業実施前燃料（灯 油）の単位発熱量あ たりの排出係数	tCO2/GJ	2013年度～ ～2017年度：0.0686	J-クレジット制度のデフォルト値	変更なし

6 排出削減量の計算

6.1 事業実施後排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	354,567.4	0.044	0.0513	800.3
2014 年度	428,660.0	0.0464	0.0513	1,020.3
2015 年度	379,444.9	0.046	0.0513	895.4
2016 年度	336,403.1	0.045	0.0513	776.6
2017 年度	322,741.2	0.045	0.0513	745.0
単位	Nm3	GJ/Nm3	tCO2/GJ	tCO2
EM _{PJ}				4,237.6

6.2 ベースライン排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	16,220.5	—	0.0686	1,112.7
2014 年度	20,679.7	—	0.0686	1,418.6
2015 年度	18,147.6	—	0.0686	1,244.9
2016 年度	15,739.3	—	0.0686	1,079.7
2017 年度	15,100.1	—	0.0686	1,035.9
単位	GJ	—	tCO2/GJ	tCO2
EM _{BL}				5,891.8

6.3 リークエージ排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	0			0
2014 年度	0			0
2015 年度	0			0
2016 年度	0			0
2017 年度	0			0
LE				0

6.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	EM _{BL}	5,891.8
事業実施後排出量 (7.1)	EM _{PJ}	4,237.6
リークエージ排出量 (7.3)	LE	0
温室効果ガス排出削減量	ER	1,654

7 省エネルギー量

原油換算 (kl)		
ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン-実績 (①-②)
2,125.8	2,044.6	81.2

省エネルギー量（原油換算）＝81.2 kl (2,125.8 - 2,044.6)

熱量換算及び原油換算において用いる換算係数については、エネルギー使用の合理化に関する法律（省エネ法）施行規則第4条に規定する換算係数を使用すること。

9 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 (年 月 日 ~ 年 月 日)			
	単位	エネルギー使用量	熱量換算 (GJ)	原油換算(kl)
		(実績)	(実績)	(実績)